平成１８年度人権教育研究室

第六学年　道徳学習指導案

１．主題名　　「親切」について考える

２．補助教材　「心に通じた『どうぞ』のひとこと」
（福岡県版　「明日をめざして道徳６」より）

３．目標

○身のまわりの具体的な場面を想定して，「親切」な行動に向き合うか，向き合わないかの自分の感情を見つめ，友達や登場人物の考えから，自分の感情を見つめなおすことができるようにする。

４．指導観

○本校の六年生の児童は，人の話はまじめに聞き，ものごとに対してはまじめに行動しようとする。しかし，教師の指示を待つ傾向にあり，人間関係の範囲が限られた友達関係の中だけで，それ以外に広がりが出ない傾向にある。人を傷つける言葉を使っていることにいやだと思う感覚はあり，自分の身近な友達に相談することはあるが，集団に投げかけて解決していこうとする力が十分に育っていないことが，学年の中で課題として挙がっている。

本校で児童の生活実態を把握しようと取り組んだ「生活実態アンケート」を見てみると，四年生時からの３年間の推移では，

①勉強時間１時間以上　・・・・・53％→ 63％→ 83％と増加
②テレビの時間１時間以上　・・・80％→ 83％→ 88％とやや増加
③就寝時間・・・・・・・・・・・・・10 時ごろは 42 ％→ 47 ％→ 34 ％とやや減少
11 時以降は 20 ％→ 30 ％→ 44 ％とやや増加
④自分のことが好き　・・・・・・66％→ 55％→ 49％と減少
⑤学校が好き　　・・・・・・73％→ 60％→ 70％

という結果が見られた。

また，他のアンケートでは，「お家の人に大切にされている」と答えたのが約 91％，「学習やスポーツ，性格のことで人からほめられたことがある」と答えたのが約 81％を占めているのに対して，「自分がだめだなと思うことがよくある」と答えたのが約 86％いる。さらに，「まちがうのがこわくて手をあげないことがある」のは約 71％いる。こうしたことから考察されることは，包み込まれ感覚は高い方であるが，自信がもてていない傾向にあり，まちがうことへのおそれや抵抗感が強いようである。そうした影響からか，学習面において，意見発表が活発ではない。

さらに，「いじめはいじめられている人に原因があるのでいじめられる人が気をつけたら，いじめはなくなると思います」という質問に，「はい」か「どちらかというとはい」と答えたのが約 37 ％いた。「人がいじめられていても，なかよしの子でなけ

ればかかわらないこともあります」に「はい」か「どちらかというとはい」と答えたのは約 52 %で，半数を超えていた。

こうした実態から見ても，多様な考えにふれる機会をもつことは有効であり，他者の考えに共感する場を体験させることは重要であると考える。

○「親切」とは，自発的な行為であり，相手を思いやる心情から出る行為である。社会生活は，人とのかかわりなしでは成り立たない。人と人とのかかわりの中で，望ましい生き方をしていくには，他者の立場にたって物事を考えたり，気持ちを推し測ったりする中で，自分の行為のあり方を見詰め，相手への「思いやり」や「親切」の心を育むことは大切なことである。

本学習では，具体的な場面として，「電車での席をゆずるか」を想定する。地下鉄も学校の近くにあり，電車に乗った経験をもっている児童には，想像しやすい場面である。そうした場面に出あったときの思いを見つめ，感情と行為のちがいにもせまり，より「親切な行為」に向き合っていくように学習させていくことをねらいとしている。

補助教材「心に通じた『どうぞ』のひとこと」では，主人公は席をゆずりたい気持ちがあるが，「どうぞ」といえないままに席をたち，ゆずる行為をとっている。道徳的にも完成された行為ではないが，その気持ちが「おじいさん」には伝わっていて，その「おじいさん」の主人公に向けた感謝のことばかけに，自分の親切な行為のよさを感じとっている。

高学年の児童は，行動範囲も広がり，学校の中だけでなく，地域社会の中でも多くの人たちと接するようになる。そうした中で，人に親切にしたり，されたりした経験ももっている児童がいるであろう。親切にしなければということも自覚していても，なかなか行為として実践するまでには踏み切れなかったり，迷ったり，配慮が欠けたりということも経験しているであろう。そうした場面に出会ったときの心情的な葛藤に向き合い，「親切」な行為をするよさと，よりよい方向へ向き合う気持ちを大切にする態度を育てたい。

○本時では，「電車で席をゆずるか」の場面に出あったとき，自分の感情が「ゆずるか」「ゆずらないか」のどちらの方向に傾くかを見つめさせる。そのときの感情として，ゆずる方を赤い色，ゆずらない方を青い色にして，ハート型の図に色分けをさせて塗らせていく。さらに，行為の結果として，「ぜったいにゆずらない」→「まようがゆずらない」→「時間をおいてゆずる」→「『どうぞ』と声かけしてゆずる」の間で，どの位置にくるかを考えさせ，4 段階の位置が表示された黒板に態度表明をさせる。補助教材ともつなぐため，教材文の冒頭の文章を引用し，場面設定をする。表明後，「まわりの人が見ているのですぐにゆずる」とか，「はずかしいので少し様子を見る」などの思いを出し合わせながら，意見交流をする。感情と行為のちがいにもせまり，より「親切な行為」に向き合っているか，拒否しているかを率直に出させたい。

指導にあたっては，実態にあげたように，明確な答えを発言するときは意欲的だが，自分の思いや意見を他者に伝える場面では発表が少なくなる傾向にあるので，ネームカードを黒板に標示し，自分の考えがどちらの傾向になるかを明らかにさせ，考えを発表するようにする。また，小グループにして，意見交流をしやすい雰囲気をつくりたい。さらに，根拠や理由を出すことができるだけやりやすいように，迷っている人

が多いことを想定した上で，出し合うことを促していきたい。互いに質問も交えながら，ゆっくりと交流したあと，補助教材「心に通じた『どうぞ』のひとこと」を読み合わせるようにする。登場人物の「どうぞ」が言えなかった迷いとおじいさんがすわれた喜び，さらには，主人公が思いもかけずおじいさんから感謝の気持ちを受けるという場面で，その喜びにも共感させていきたい。そこで，改めて，自分の「向き合うか，向き合わないか」の感情を問い直していかせるようにする。最後に感想をまとめ，簡単に交流させるようにする。

５．指導計画　（１時間）

○「親切」な行為に実践的に向き合えるかを，自分を見つめながら，実話に基づいた補助教材から，よりよい方向に向き合うよさを味わわせる。

６．展　開

準備；　補助教材のプリント，学習プリント，電車の場面を書いた模造紙
　　ネームカード（カード記入用のサインペン）

学習活動	学習指導上の詳細と支援・指導の工夫	資料
１．「親切」と聞いて連想することを出し合う。	○身のまわりに起きた「親切」なできごとを想起させる。	
２．本時のめあてを知る。 「親切なことを実際にするか迷う自分をふりかえり考えよう」	○意見交流がしやすいように「先生も場面によってはしない（できない）こともあるかもしれない」など話を聞かせ，ともに考えようとする雰囲気をつくる。 ＊相手をせめるような発言はしないように指示する。	・めあての標示
３．電車の場面を知り，気持ちを図に表す。 ①場面を知る。 ②ゆずるか，ゆずらないかをハートの図に表す。	○境目をはっきりさせるようにする。	・電車の場面を書いた模造紙
４．自分の名前と考えを，カードに書き，発表する。 ①「電車で席をゆずるか」を想定して，自分の行為として，「ぜったいにゆずらない」→「まようがゆずらない」→「時間をおいてゆずる」→「『どうぞ』と声かけしてゆずる」の間で，どの位置にくるか態度表明をする。 ②どうしてその位置にしようと考えたかを小グループで発表す	○自分がどこの位置にいるかを明確にさせる。このとき，感情と行為にちがいがあることも意識させ，どの位置にきてもいいことを伝える。気持ちと行為のちがいは，発表のときに付け加えるように指示する。 ○自分の位置を書き残すため，学習プリントにもその位置を記録させておく。 ○感情と行為のちがいを見つめさせ，感じたことを学習プリントに書かせる。	・ネームカード

る。 ③互いに聞いたことに，質問や思ったことを交流する。 ５．「心に通じた『どうぞ』のひとこと」を読み，感想を出し合う。 ６．再度，電車の場面での感情の傾きを考え，感想を記録としてまとめる。 ７．本時のまとめをする。	○時間がゆるせば，全員にさせたいが，できるだけ多く発表させるようにする。 ○相手をせめるような発言でなく，自分の思いと比べながら聞くように指示する。 ○主人公の行為の完成されていない点や，最後まで「どうぞ」といえなかった点については，読みながらおさえておく。 ○感想は思ったまま出させ，活動４の②の意見発表とつながりが出た場合は評価する。 ○気持ちや行為の変化が可能性として出てくるようであれば，感想の中にその変化を書き込むように指示する。 ○感想を発表させ，それぞれの気持ちの変化や変容に気をつけながら聞くようにする。	